

信仰者の生活 2

主に喜ばれる者になるための基盤と原則

日本聖書学院

目次

目次	1
クラス概要	i
変化の基盤	1
変化：クリスチャンの目標	2
I. 変化の必要性	2
II. 変化の種類	2
III. 変化の方法	2
IV. 変化の過程	2
どの知恵に頼るのか	3
I. 真の知恵を得る方法	3
II. 真の知恵を見分ける方法	3
聖書だけで十分なのか	4
I. クリスチャンが抱える混乱	4
II. クリスチャンの持つべき確信	4
III. 聖書だけで変わることができる根拠	5
みことばが与える祝福	6
I. 詩篇19篇に見る祝福	6
II. 詩篇1篇に見る祝福	6
変化の原則	8
正しくものを考える	9
I. なぜ正しく考えることが重要なのか	9
II. どうしたら正しく考えることができるのか	9
神を知る	10
I. 神を知ることの大切さ	10
II. 神を知ることと問題の解決	10
III. 神を知ることと変化	11

神に祈る	12
I. 祈りの間違っ理解	12
II. 聖書が教える祈り	12
III. 祈ってさえいればよいのか	13
IV. 祈りが聞かれないとき	13
V. 祈りと変化	14
感情と戦う	15
I. 願望と罪の関係	15
II. 感情と行動	15
III. 良心と心の問題	15
IV. 感情に打ち勝つために	16
神の栄光に満足する	17
I. 何のために生きているのか	17
II. 神の栄光とは何か	17
III. 神の栄光と人の満足	17
IV. 神の栄光に満足するために	18

クラス概要

概要：

「クリスチャン生活2」では、クリスチャンが神に喜ばれる者に成長していくために絶対に理解しておかなければならない大切なことから学びます。特に聖書の十全性と神への信頼に基づく生き方がどのようなものであるのかを知り、実際の生活に生かすべき原則について考えていきます。

具体的な学習目的：

- A. クリスチャンが求めるべき変化がどのようなものなのかを理解する
- B. 真理の探求方法について正しい理解を持つ
- C. 聖書の十全性もっている意味を私たちの実生活の中に適用する事ができるようになる
- D. 実生活における聖書の役割を説明できるようになる
- E. 変化の原則を説明できるようになる
- F. 神を知ることがどういう意味なのかを理解する
- G. 祈りについて正しい見解を持つ
- H. 感情の問題点を理解し、聖書と感情の関係を説明することができる
- I. 神の栄光のために生きるとはということなのかを説明できるようになる

課題：

学生はこのクラスを修了するために以下の課題を期間内に終了し、提出しなければなりません。

A. 課題図書を読む

- 1. 「神を知ること」 J.I.パッカー著 渡部謙一訳 いのちのことば社発行

課題図書は提出期限までに完読してください。完読できなかった場合は、読み終わった時の日付を講師に連絡してください。

B. プロジェクト

課題図書の中から合計6章を選んで、その章の内容をまとめ、自分の生活と照らし合わせながら教えられたことをレポートとして提出してください。各レポートA4用紙二枚以上書くようにしてください。

成績：

成績は日本聖書学院学生要項に記されている成績基準に沿って判断されます。このクラスにおけるそれぞれの課題の比重は以下の通りです。

必読書 30%

出席+クラスへの参加及び態度 10%

プロジェクト 各10% x 6 = 60%

変化の基盤

変化：クリスチャンの目標

I. 変化の必要性

II. 変化の種類

A. 表面的変化

B. 本質的変化

III. 変化の方法

A. 人間的知恵

B. 聖書的知恵

IV. 変化の過程

どの知恵に頼るのか

I. 真の知恵を得る方法

A. 人の経験に基づく知恵

B. 神の啓示に基づく知恵

1. 特別啓示

2. 一般啓示

II. 真の知恵を見分ける方法

A. 主観的真理探究方法

B. 客観的真理探究方法

聖書だけで十分なのか

I. クリスチャンが抱える混乱

A. 聖書に対する誤解

B. 「導き」の乱用

1. 聖書を無視した「導き」
2. 感情に基づく「導き」
3. 状況に基づく「導き」

II. クリスチャンの持つべき確信

A. 聖書以外に神のみこころを知り、主の導きを受ける方法はない

B. 聖書は人生のあらゆる状況に対して原則を提示している

C. 聖書が提示する原則をクリスチャンは理解することができる

III. 聖書だけで変わることができる根拠

A. 問題の中で確信すべきこと

B. 確信できる根拠

1. 神との特別な関係
2. 救いをもたらす力
3. あらゆる権威の源
4. あらゆる変化の源

C. 根拠から導き出される回答

みことばが与える祝福

I. 詩篇19篇に見る祝福

A. みことばは人に対して何をするのか

1. 聖書は人に救いをもたらす
2. 聖書は人に聖化をもたらす
3. 聖書は人に喜びをもたらす
4. 聖書は人により深い理解をもたらす

B. みことばは人にとってどのようなものか

1. 聖書はおそれの源である
2. 聖書は裁きの源である
3. 聖書は義の源である

II. 詩篇1篇に見る祝福

A. みことばの実践は幸福を保証する

B. みことばの実践は行動を変える

1. 世の知恵に頼らないで生きる
2. 世と同じ道を歩まずに生きる

3. 世の仲間にならずに生きる

C. みことばの実践は焦点を変える

1. 主の教えに喜びを見いだす
2. 主の教えを常に思い起こす

D. みことばの実践は祝福をもたらす

1. 幸いな人の置かれている状態
2. 幸いな人の持っている特徴
3. 幸いな人に与えられている約束

変化の原則

正しくものを考える

I. なぜ正しく考えることが重要なのか

II. どうしたら正しく考えることができるのか

A. 神に依存する

B. 思いを虜にする

C. 正しいことを実践する

神を知る

I. 神を知ることの大切さ

II. 神を知ることと問題の解決

A. 神の存在

B. 神の不変性

C. 神の主権性

D. 神の知恵

E. 神の正義

F. その他の属性

III. 神を知ることと変化

神に祈る

I. 祈りの間違った理解

II. 聖書が教える祈り

A. 祈り (プロセウーケ)

B. 誓願 (デエシス)

C. 懇願 (エンテュークシス)

D. 感謝 (ユーカリスタ)

E. 願い (アイテマ)

F. 告白（ホモロギア）

G. 礼拝

III. 祈ってさえいればよいのか

IV. 祈りが聞かれないとき

A. 前提：神はすべての祈りに答えられている

B. 考察：神が祈りに否定的に答える理由

1. 偽善的な祈りを神は受け入れない

2. 不信仰な祈りを神は受け入れない

3. 憤りに満ちた祈りを神は受け入れない

4. パリサイ人的な祈りを神は受け入れない
 - a. 人に見せるための祈り

 - b. 自分に祈る祈り

5. 自己中心的な祈りを神は受け入れない

6. 非聖書的な祈りを神は受け入れない

7. キリストの名によらない祈りを神は受け入れない

V. 祈りと変化

感情と戦う

I. 願望と罪の関係

II. 感情と行動

III. 良心と心の問題

IV. 感情に打ち勝つために

A. 罪を悔い改める

B. 感情を中心に置かない

C. 神の義を追い求める

神の栄光に満足する

I. 何のために生きているのか

II. 神の栄光とは何か

III. 神の栄光と人の満足

IV. 神の栄光に満足するために

A. 約束を信じて生きる

B. 真の価値を見極めて生きる

C. 祝福が与えられていることを覚える

D. 生きる目的を思い起こす